



門 凡 345
18



山州名跡志卷之十八目錄

殿舎部

禁裏

常御殿

内侍所

左近櫻

古跡

縣宮

桃園池

京極殿

北邊亭

紫宸殿

御學問所

陳座

右近橋

東北院

縣井

一條院

鷹司殿

花山院

清凉殿

小御所

日花門

二條金城

西北院

世尊寺

染殿

高倉殿

小一條

殿上間

記祿所

月花門

山井

井戸殿

桃園

清和院

棗院

枇杷殿

| | | | |
|-----|-----|------|------|
| 菅原院 | 櫻町 | 石井 | 内記井 |
| 滋野井 | 本院 | 高陽院 | 常盤井 |
| 近院 | 小松殿 | 小野殿 | 陽成院 |
| 冷泉院 | 小二條 | 鴨院 | 町尻殿 |
| 東三條 | 驛院 | 二條院 | 二條宮 |
| 堀河殿 | 竹三條 | 押小路殿 | 山井殿 |
| 中西殿 | 大西殿 | 御子左 | 高松殿 |
| 蚊松殿 | 梅園 | 御倉町 | 鬼殿 |
| 四條宮 | 西院 | 南院 | 天神御所 |
| 紅梅殿 | 五條院 | 河原院 | 池亭 |
| 千種殿 | 北院 | 鈎殿院 | 中六條院 |

| | | | |
|--------|---------|-----|-----|
| 中院 | 南院 | 六條院 | 桂宮 |
| 亭子院 | 弘誓院 | 九條殿 | |
| 洛外西邊 | 宇多院 | 西院 | 西三條 |
| 西宮 | 大學寮 | 勸學院 | 井學院 |
| 凜和院 | 學館院 | 弘文院 | 鴻臚館 |
| 施藥院 | 羅城門 | | |
| 歌人并高名亭 | 略目錄已下亦同 | 公卿亭 | |
| 法皇后妃御所 | 足利家將軍館 | 武臣第 | |

山州名跡志卷之十八目錄終

院御所棟ノ槌ヲウツ 御殿ニツノ棟ト南門ト車寄五御所ノ棟ニテウツナリ云々又云信長公天正五年三月四日。内裏ノ築地京中ノ町人コレヲツク云。按生是則造營ノ始リ歟。自是サキ元龜四年四月四日。為軍信長公北京ヲ放火アリ。此時内裏炎上云。正親町院御即位ノ時世不靜ノ故ニ 朝廷勅省ナリ。依テ 御即位ノ義以難辨。毛利元就其料ヲ奉進ス。是故ニ元就ヲ被叙大膳大夫。桐蔭ノ御紋ヲ賜フ。又元就 内裏ヲ造營ス。此時土御門ノ地ヨリ移ス者歟。今 御所外郭百一間。南北百十一間。紫宸殿清涼殿殿上常御殿御學問所小御所 内侍所等巍々多

○紫宸殿 南面 檜皮膏東西十一間半。南北八間。板敷。四方縁欄干。南面段階。東西南面戸。鈎黑格子。藪賢聖障子。絹張。

○清涼殿 南面 在紫宸殿西。東西十一間。南北九間半。四方縁欄干。東南鈎格子。藪。

○殿上間 南面 在清涼西北。東西十間。南北五間。南面段階 小板敷 在同殿。

○常御殿 在紫宸北東。東西十三間半。南北十間半。夜御殿 晝御座 在此殿。

○御學問所 在右殿北。東西六間。南北十四間半。

○小御所 記祿所 載圖流布于世。

○内侍所 東面 在紫宸東去十四五間

○陳座 東面 在紫宸西傍

○日花門 在內侍所南 ○月花門 在陳座南

○左近櫻 右近橋 在紫宸殿前

○二條金城 在二條堀河西

靜平洪基 威光無邊 柱礎如磐石之固 仰望如泰山之安

將軍家 御上洛御所

天子行幸玉臺 傳云。上古此地在今泉院

古跡

已下所載出拾芥抄 西所註所引和歌愚案

東北院 一條南京極東 上東門院御所云 愚案

一條南入 一條通ノ南方ニシテ。京極通ヨリ。東ニ至ル所ト

云義ナル歟。已下街之上古ニ自一條至九條大路皆

東八鴨川原ニ通ズル也。如今ノ中御門通ヨリ。今出河大

路ニ至テ。鳥丸ヨリ東方 禁裡ノ郭ニシテ此條塞リ。

或書曰。此院ヲ号東北院。法成寺ヨリ當東北ノ謂也。

自一條二町南近衛北方。京極東ニリ。法成寺載寺院部

○上東門院 條院中官 後一條院 後朱雀院 御母

續後撰集 皇太后官 彰子 御堂關白道長公女

西北院 一條南京極西 愚按是又在法成寺西北謂致

井戸殿

一條北東洞院西角

号縣井在縣宮故也

大和物語

大膳野公平乃女あがれ井戸といふところ

怪たりおのゝこゝろのまよおのほのほといひてさうひら

三よあさりさうへへおあさひあさるまゝさうりけ

おあふたんとてあおさうりさうりさうりけ

やりさうり

しせよくてもやまのほほ乃園池をいふまひてさう

縣井

新編古今集

我らあれいあつるまはれと後園とぬれをのまきてさう

縣井

詠和歌

後集 けしきあつるまはれと後園とぬれをのまきてさう

千首和歌

けしきあつるまはれと後園とぬれをのまきてさう

世尊寺

一條北大宮西本小路東無路南 伊尹攝政家

本主貞純親王云此所案一條通大官ヲ至西所北

方秋本小路不會議エセヤカラハ大官東秋無路ハ無車小路

落字秋同衛在ニ一條北

伊尹公 正二位右大臣師輔公男母從四位上武

藏守經邦女攝政太政大臣從一位天祿三年十

月二日薨贈正一位謚謙德公

貞純親王 清和天皇第六男上總常陸太守中務

兵部卿正四下号桃園母中務大輔神祇伯棟貞女

宇治拾遺 今いひて世尊寺といふ也 枕室大納言といふ人

あつたのそらりのふせりせむつふせりたることありしなり

桃園 一條北大宮西世尊寺南 保光卿家

源保光卿号桃園中納言代明親王男母中將實方女

賀茂齊院オリ玉ヒテ此所ニ住マハリ

拾遺集 桃園より住たりし所奇院の屏風

白あ乃妹の衣の袖のむまもも多然ももそつひのせり

桃園池 此所ニ池アル由載舊記曰貞純親王延喜十

六年五月十七日薨六十四歳於一條大官桃園池

為龍由時人得夢告云 謙徳公家又為法性寺

一條院 一條南大官東二町 六臣為光家

謙徳公 攝政太政大臣從一位伊弉公議也

為光公 右大臣正二位師輔公子 太政大臣從一位 謚謙徳公

○正親町通

深殿 正親町北京極 忠仁公家 盛衰記

清和院 正親町南京極西 清和母后御所

母后 太皇太后藤明子 忠仁公女

○土御門通

京極殿 土御門南京極西南北二町其南一町被入

道長家或大入道殿家上東門院是也

後一條 後朱雀 後冷泉院三代帝於此所誕生匡

衡宅又皇后四人於此所誕生此家紀伊島云賀茂

明神通路云云後一條後冷泉被加南一町云云

愚按匡衡宅上此所始匡衡宅ナルノ謂歟紀伊島上

此所ニ紀伊島ヲ移ス歟賀茂神ノ通路上彼神影向シ

玉ニ致本紀未考

鷹司殿タカシツサカト土御門南万里小路東或富小路從一位倫子家

倫子リンシ上東門院母公道長公室左大臣雅信公女

高倉殿タカクラ土御門南東洞院西一町昭宣公家云云

又入道大相國家又左大臣仲平公家

昭宣公太政大臣攝政從一位基經公謚仲平昭宣公男

棗院ササ土御門南東洞院西二町左大臣家云云

愚案貞信公歟

北邊亭キタノヘ土御門北西洞院西左大臣源信公家

信公シノノ傳曰嵯峨帝第十子母廣井氏正二位

右大臣号池邊大臣拾芥一書池作地

○近衛通

花山院ハナヤマ近衛南東洞院東一町本名東一條云云

式部卿貞保親王家貞信公傳領之住小一條之開

號之東家九條殿令給外

冷泉院此所立坊花山院傳領之右傍カサクラニ丸ヲテス

處文義不分明展傳書寫誤歟

貞保親王清和帝御子母太皇太后高子二品式

部卿号桂親王

近院 春日北烏丸東 号松殿 左大臣能有公家

能有公 文德帝第十三子 正二位右大臣 仁壽三年正月賜源姓

○大炊御門通

小松殿 大炊御門北町東 光孝天皇誕生所云

小野殿 大炊御門南烏丸西 惟高親王家定頼傳

領之清慎公傳領之

定頼卿 大納言公任男 正二位權中納言母昭平親王女

清慎公 攝政大政大臣 藤實頼公謚号

陽成院 大炊御門南西洞院西 陽成院御誕生所

冷泉院 大炊御門南堀河西 嵯峨天皇御宇此院

累代後院弘仁亭本名冷然院而依火災改然字爲

泉 天曆御記

後拾遺集

冷泉院... 免てはくら... 水... 可... 云々

○二條通

小二條 二條南東洞院東南北二町 或号山吹殿

俊賢卿家 師尹公家御堂殿已下大二條殿傳領

二條后高子宅

俊賢卿 左大臣源高明公男

師尹公 左大臣 小一條忠平公男

鴨院 二條南室町西一町南北二町 或非院字鴨

堀をたつてせうけつりていふ

りまふみまの家の堀むらけゆきておきや園藝院

湧るへし

わめとつひやとていふ堀とてゆきとていふ

愚案 後深草院ノ御時此所御所トナリ見玉葉集

玉葉集 後深草院乃馬時五節とて官廳より園院に

クニギヨ

そめりていふ堀とていふ堀とていふ堀とていふ

按ス西居上當所閑院ヲ云ナレ其比八大内

炎上ノ故五節ノ式モ官廳ニテ執行ハズアリシ

雲井ハ古大内ヲ云致炎上同御宇建長元年二月也

二條院 二條北堀河東

天曆母后御領云云

愚案 天曆帝ハ村上天皇也母公ハ昭宣公女

二條官 此院ノ近所ニアルニヤ見三代實錄前文畧

東二條院與二條官相去東行數百步是夜皇太后

出自常寧殿迂御二條院焉

大内ノ殿ナリ后妃候セラル所ト云

堀河殿 二條南堀河東南北二町 昭宣公家忠義

公傳領

昭宣公 見上

忠義公 師輔公男 関白兼通公謚 号堀河

押小路通

竹三條 押小路南東洞院東 或云二條院內
押小路殿 押小路南室町東 普光園殿下 又云

二條殿
普光園殿下 光明峯寺道家公男 關白左大臣良實公

三條坊門通
山井殿 三條坊門北京極西 永頼三位家信家

卿通頼卿
永頼 中納言從三位貞嗣男 皇太后權大夫号山井

信家 關白教通公男 權大納言号山井
通頼 藤伊周公男 大納言号山井

中西殿 三條坊門北富小路西 定方大臣家

二定方 内大臣高藤公男 從一位 右大臣 贈從一位

大西殿 三條坊門北万里小路西 定方家

御子左 三條坊門南大宮東 兼明親王家長家卿
傳領 按此所ヲ小藏宮ト云シヤ源平盛衰記卷

四三條官御子左ノ小藏宮ト云ケル云
兼明親王 延喜帝第十五子 母菅根女 一品中務卿 号小倉親
長家卿 關白道長公男 正二位權大納言

高松殿 姊小路通
高松殿 姊小路北西洞院東 高明親王家

高明公 延喜帝子 正二位左大臣太宰權帥 号西條
後白河院御若年ノトキ 此所ニ住テ由出保元物語

直三姊小路西洞院ノ内裏上云ヘリ其時天子六上
玉ハサレドモ後即位シ玉ヘルヲ以テオシテ内裏上云々
蚊松殿姊小路北堀河東橘逸勢家
逸勢依逆心配伊豆國承和七年九月自害

○三條通

梅園 三條北京極東 朝綱卿家

朝綱卿 大江音人孫 号後江相公

御倉町 三條北烏丸東 七條院御所云云

鬼殿 三條南西洞院東 有佐宅 惡所云云 或朔成跡

有佐 小野良行男 小野小町甥 任河内守

三條院 三條堀河 滅字 廉義公宅

廉義公 攝政太政大臣從位清慎公男關白從位太政大臣顯忠公

○四條通

四條宮 四條南西洞院東 廉義公家 公任大納言家

紫雲立所

公任 廉義公男 母代明親王女 正一征權大納言 号四條

西宮 拾芥抄四條北朱雀西高明御子家 今称夷

宮其東ニ清泉アリ 按西宮攝州西宮同訓故至後

世号夷宮者乎 高明公 醍醐帝御子 今泉帝

朝爲左丞相安和元年依護謀遷大宰府天祿二年

飯洛公 馴政事所署書有西宮記

南院 四條北壬生西 是忠親王家

是忠

光孝天皇御子母皇太后班子仲野親王女

一品式部卿中納言

○高辻通

天神御所 高辻北西洞院東

案云此所今菅大臣

社地之狀如左。有社。五條坊門西洞院東也。古云其地南北一町三丁。南條以高辻通爲面狀。然則此所高辻北方之者也。

○五條坊門通

紅梅殿

五條坊門北町面

北野御子家或天神御所。

北野御子

天神御子也。傳未考。

案云拾芥抄町

面八町西ナラ書寫ノ所誤歟。其故ハ今五條坊門通新町西北方ニ号天子小社アリ。此所ナラ歟。天子即云天

神御子義ナラ。今其西面南方ニ号菅大臣社アリ。所祭

天神ナリ。此所同御所地下傳云也。又号紅梅殿ハ彼神御愛ノ梅アル謂ナルベシ。後人可有考。

○著聞集云菅大臣宰相府小がりやきくらまらふ比

こららふとむいおとせよ梅乃むあうーあしと春まよまそ
どうとまひこのら彼如梅後の梅片枝をうじういまいて
あま乃花れおのまらうせしつふじのこららふとむい
やゆせさるういさうりもまこむ。彼本

先久於故宅 廢離於久宇 麋鹿於住所 無主又有花
○五條通

五條院二町 五條北大宮東

金岡疊石云云

○六條坊門通

河原院 六條坊門南万里 小路東八町云融大臣家

後 寬平法皇御所本四町京極西号東六條院拾

愚云六條坊門今少橋通是也南上其南方ヨリ南ニ至

也今猶此條麩屋町通ノ西一町ヲ云塩竈町也万里

小路今少柳馬場通也。是ヨリ東ニ至也坊門通南方

ヨリ南ニ至リ其所今猶明白也 一條院御宇長保

二年所造也

融公 嵯峨帝第二十二子母正西位下大原金子 從一位左大臣

贈正一位号河原大臣

伊勢物語語愚見抄曰 河原院ハ左大臣六條川系に家

を造りて池をほり毎日潮を三十石をり入て海庭乃真貝木

と伝へ先陰奥困塩竈乃浦とらほりて海庭のちをり

あかりをさそく。較まきさうとかなんき

後撰集 家よ少平船屋まうでまりあ海は月乃たゆら

うりまうあ海庭まうでまりあ海は月乃たゆら

てる月をさあれつるふらりまきあをさほらん川系を

スー

かきりささあひつらあかかき本あつらりあまあ少平船

大和物語 亭子院とまきあくらあまみさうりして作

をさあろくあらありて川系院をいふたのゆつて

たりきりに。東極の山をいひては、その山をいひては、
こころあはれしきり。まゝに事なり。ちかひたまはる。みづか
しきり。ちかひしきり。はるかに。まゝに事なり。ちかひ
る。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。

世の中は、はるかに。まゝに事なり。ちかひたまはる。みづか
しきり。ちかひしきり。はるかに。まゝに事なり。ちかひ
る。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。

きれど。みづかき。まゝに事なり。ちかひたまはる。みづか
しきり。ちかひしきり。はるかに。まゝに事なり。ちかひ
る。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。
ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。ちかひ。

池亭 六條坊門南町尻東隅 保衛宅

保衡 傳不考

千種殿 六條坊門南西洞院東 中務官具平親王

家保昌傳領之

具平親王 村上第六皇子。号後中書王。五品中務

卿号千種母。庄子女王代明女。寬弘六年七月廿八日

薨四十六歲

保昌 左馬守致忠男 藤攝津守

○楊梅通

北院 楊梅北烏丸西 又号小六條 六條院御領

○六條通

鈎殿院 六條北東洞院東号六條院

光孝天皇御所附属淳子内親王 淳子 不詳

中六條院 六條北東洞院西 寬平御所此亭池龍宮相通云

中院 六條北烏丸西 淳和院御領給信家卿

信家 開白教通公男 權大納言 号山井

金葉集

ひりやんの中院よとすゆはひりやんらみとさりやん
あやうとんの中院のとやんらみとさりやんらみとさりやん
はまらうとんの中院のとやんらみとさりやんらみとさりやん

愚勘第三宮 氏子内親王 三品 齋宮 系圖傳

南院 六條北烏丸西 小一條院御領云

六條院 六條南室町東號海士橋立有連理樹

祭主輔親家 愚按南院六條北トアル疑ラク南丸跡

然るに南院十六條院上東西ニ雙ニテ爲隣也其故清輔
袋州子ニ南院ハ海士橋立也輔親卿家也爲見月寢
殿ノ南ノ庇ラハ不差云云懷圓ガ池水ハ天川ニヤ通フ覽ト
讀ム於此詠スルナリ云南院後ニ輔親領ジテ一壇シツル
次實記未考懷圓法師ノ歌載後拾遺集如左

月のひとちのりろくはるる
かこもこのまぐちよきまて
室のほろきりけふよ
あまひさるんはあ
さうは月乃ろくはるる
月乃ろくはるる

池ありは天の川名かみんそらるる月此をよめゆの懷
室町通六條南東方今尚云海士橋立也
輔親ノ神祇能宣子

桂宮一町六條北西洞院西 未考

○七條坊門
亭子院 七條坊門北南西洞院西二町

寛平法皇御所元東七條后温子家

温子 中多天皇后昭宣公女寛平九年七月廿六日中宮昌泰二年七月廿三日
皇太后延喜七年六月八日薨三十八歳 七條后又皇東三條

案ス七條坊門北南難定致坊門ノ南方ヨリ南方
七條ノ北方ニ至リ直一町義九致然る以南也筆者所誤致
及拾遺集 亭子院の所あり乃るれいりろくあそ家の

まげふをえりてみさかひて
白雲のくもも何れかきんありてれはもくうとゆを
ゆふ

植くわく悉くわくらめをふたふみそやまもきん 侍亭子院同賦月影滿秋池應太上法皇製

菅淳茂

洛陽城內有一離宮竹樹泉石如仙洞余蓋世之所謂亭子院焉太上法皇雖入三密之道出万乘之家猶未捨此地風流以助彼岸寂靜故今商颯半暮之秋漢月正圓之夕阿耨池淨摩尼光浮懸鸞鏡於波心似揚州之鑄出浸冰絹於潭面如

泉室之織成况珠露万點倚荷葉而助桂花玉沙數重穿魚衣而宿蟾影水月之相應空觀自生心目之不離煩慮即滅下略

崇親院 在東六條 出三代實錄 左大臣良相公

貞觀六年所立 拾芥抄在東五條京極

三代實錄曰以東京六條宅名崇親院引氏中子女不能自存以叔養並皆割封戶入莊田給其資用崇親院中一小堂安置佛像令居住者每旦盥洗誦名号以植後世之善根卷十四 十九丁

八條

弘誓院 八條南東洞院東 大納言教家宅

教家 後京極良經男 正二位權大納言

○九條坊門

九條殿 九條坊門南町尻東 右大臣師輔公家

師輔公 關白大政大臣忠平公身母右大臣源能有公女 正二位右大臣

○洛外西邊 鳥籠至東

宇多院 在土御門北木辻東 拾芥抄 土御門八合上長

者町也如云此條ヨリ北ニシテ木辻東也木辻如今六妙

心寺ノ東ヲ云々如拾芥是ヨリ北ニ當リ拾芥曰此小路

當東洞院法皇御所刑部卿源湛宅云或抄云西京

宇多小路但此小路當町尻東行上愚按木辻其豎條

ニシテ配當東京東洞院或抄町尻東行上彼條ノ東

方ニ當ル義致今木辻上云ノ東西ノ條ヲ云々

法皇 寬平上皇 源湛 嵯峨天皇第十皇子清男也

續千載集

宇多法皇清製

為つる宇多野乃風をうきよそはを流るゝやとあまを

は撰集 宇多院より百せんとなりあまをむす部々

みくをさそくねとあ 行明親王

西院本名 淳和院 四條北西大宮東 橘太后家 拾芥抄

愚案拾芥抄大内圖朱雀西ニ又大宮通アリ是ヲ西大

宮ト云ラ致今此名ナリ因彼書載此所 橘太后

淳和帝后ナリ○三代實錄曰元慶三年三月廿三日

癸丑 淳和天皇太后崩太后諱正子 嵯峨太上天皇之長女與 仁明天皇同產也母太皇太后橘氏后美姿顏貞婉有禮度承和七年五月 淳和天皇崩皇太后落髮為尼毀容骨立九年七月 嵯峨太上天皇崩皇太子歟遭讒搆太后宸怒悲號惡母太后皇太子退居於 淳和院當貞觀二年五月於 淳和院設大齋會延諸寺名僧講法華經裝具觀施頗盡財寶便留延曆寺座主圓仁大阿闍梨受菩薩戒奉太后法名稱良祚十六年四月太后所居 淳和院宮殿經籍一時燒蕩太后寢疾綿篤命左右曰天長天子顧命火葬不置山陵無固廟之可陪焉

瞑目之日即入朽朽之觀心補善我之山腹無置守家不配國忌一如卷後 太上天皇之遺制語終而絕時春秋七十太后慈仁天至濟物在勤收拾東西京棄兒孤孩給之乳母多所養育割封戶五分之一以充其費差巖舊宮捨為精舍号云大覺寺其側建齋舍名為濟治院療僧尼之病以 淳和院為道場不改院号安置平生侍左右之尼厚充供料永令居住師資相承修道不斷 卷三十五 十五丁 又曰天長十年二月廿八日乙酉 天皇遷御淳和院讓位於皇太子 同卷十 四丁

後撰集 西院乃后也 朽朽之觀心也 善我之山腹也 無置守也

ふくまひ後漢乃中務の松をまぼりてくさ付ゆらう
 とふふ松ううく付くまそまむひくもゆまあまのゆらりまはゆ
 案スニ至後世以當院源氏ノ公卿ノ學室トス。仍テ源氏ノ
 長者名人。當院ノ別當ニ補セラル。後小松院永徳三
 年ノ春。鹿苑院義満公左大臣ニテ。淳和并學兩院ノ別當
 フ兼帯シ玉リ。於此此任永ク清和源氏ニ可補旨依奏聞
 勅許アリ。即兩院ノ別當ニ補シ。源氏長者ノ宣ヲ蒙リ玉
 へり。中古以來此院斷絶スト云へ。別當ニ至テ。其号ヲツテ
 源氏ノ公卿。大中納言及大臣ノ後モ兼帯セラル、也
 西三條 三條北朱雀西 拾芥抄 良相大臣家。俗云百
 夜公事。同抄 亭号百花亭 上同

三代實錄曰。貞觀八年三月二十三日巳亥。鸞輿幸
 右大臣藤原朝臣良相西京第。觀櫻花。喚文人賦百
 花亭詩。預席者四十人。下略
 良相 開院冬嗣男 正二位右大臣 母忠仁公女
 貞觀九年十月十日薨 贈正一位 号西三條
 西三條 四條北朱雀西 高明御子家 拾芥抄
 後拾遺集 西のまのむらさきうらちまつくはまうらりそ
 れら。こもゆりうら西のまのむらさきうらちまつく
 て。こもゆりうら
 秋風よ老うつらこもゆらよ老うあはぬあはぬこもゆら
 愚案此所今云ラ佐井ノ南ニ當ル歟。今火葬場ノ南ニ東

西ニ徑アリ。其南ニ東西十間餘。高サ三間許ノ山ノ形
 アツテ小竹ヲ生ズ。土人は是ヲ飯山ト号ス。昔公家ノ第ニ
 シテ。假山ヲ築シムルニ。村民ニ多ク飯ヲ惠ム。故ニ号之ト。
 又山ノ南ニ大ナル池アツテ。船ノ朽タル在リト。傳云近
 世爲田也。其側土中ヨリ大石出ツ。今猶アリト。疑ラク
 此所西宮ナル歟。又此所後世佛閣トナス。塔跡アリ。上
 壇ノ地アリ。今是ヲ云壇島。傳云此所ニ号朝見塔。石
 塔アリ。秀吉公聚樂亭ニ移シ玉フト。是亦應仁記ニ云
 佛心寺ナル歟。彼記云。佛心寺ニ朝見塔アリ

大學寮 在東西兩所。東ハ坊城東三條坊門北。西壬
 生西二條南也。職原抄曰。此寮者四道儒士出身

之處也。和漢最爲重職。紀傳。明經。明法。筭道。謂之四
 道。又當寮安置先聖先師。九哲。春秋二仲。釋奠。有東
 西二曹。菅江一家爲其曹主。諸氏出身之儒。訪道於
 此。二家而已。寮頭者儒中之撰也。但雖非儒。又有例
 已此所ハ學問所トシテ。定置ル。ユヘ諸方ノ學者集ル。
 有司云。大學頭位相當從五位上ナリ。抄四道儒紀傳
 上。菅家江家ノ人。是ハ歷代ノ史傳ノ書ヲ明ム。明經ハ清
 原中原ノ輩ニテ。十三經ヲ學明ム。明法ハ坂上中原氏
 三ノ格式法律トテ。サメク。古例法式ヲ學明ム。筭道ハ三
 善小規氏ニテ。算學ヲ明ム也。是等ノ人々集井テ。指
 南ヲナス也。此所ニ先聖先師九哲ノ像ヲ安置シテ。二

月八月ニ祭アリ。先聖孔子。先師ハ顔子。九哲ハ閔子騫。冉伯牛。仲弓。宰我。子貢。冉有。季路。子游。子夏也。釋奠ハ孔子ヲ祭ル也。此寮在東ヲハ管家天神已來。管家ノ智者此所ヲ司リ。管丞相神影ヲ安ス。又西寮ヲハ大江維時已來。江家ノ智者司リテ。安惟時由見舊記。此所ノ任頭人ハ儒門ノ中ニ才學ノ人ヲ撰テ任ズ。若儒門ノ中ニ其器量ナキ時ハ他門ノ人ヲ任セラル

勸學院 在三條北壬生西 此所ハ藤原氏ノ公卿若冠ノ時學問所也。同氏中以辨官人爲別當云尚次下ニ記ス 此所始藤左大臣冬嗣公館地也云

辨學院 在勸學院西 此所ハ源氏公卿學問所也撰

才學人爲師範 帝資領ヲ附シラル。又無官司不可相續故ニ司官ヲ居ラル之ヲ号別當即源氏ノ公卿ノ中擇器量中納言大納言ノ人任之。此官氏族尊貴故ニ此任ヲ号氏長者又号淳和院所是亦同氏ノ學問所也。然ハ中大納言ノ時此兩院ノ別當ヲ兼任セラル。若其人大臣ニ升進セラル、時ハ淳和院ノ別當ヲバ次ノ公卿エ讓テ。辨學院ノ別當ノミヲ兼任セラル、モ是亦舊例トナリ。夫學問ハ諸道ニ冠タレバ此任タル事最規模也。至末代雖無此院其官稱ハ相續シテ任セラル。任官ノ名義此例也。縱ハ近衛府兵衛府等是ニ同。近衛ハ左近衛右近衛其外左衛門右衛門ナリ。

是ハ大内裡ノ内門ノ側ニ勤番ノ所アリ此所ヲ号府此所ノ長官頭タル人ハ大將ノ任官也是亦其居所末代ニナレトイヘ凡今尚任官アルナリ又左右近衛左右衛門左右兵衛ヲ号六府左近衛右近衛ハ禁裡ノ内ヲ被護ユヘニ号近衛衛門兵衛ハ其外ヲ以守云外衛也是尤武官ノ長上トシテ帶弓箭太刀其長官ヲ為大將次ヲ為次將下司官ヲ率テ被守護由古記ニ繁多ナリ
淳和院 始 淳和帝讓位ノ後住玉ヘル處後世為源氏學問所

學館院 是亦橘氏學問所也 差我帝后檀林皇后橘氏ニテ才智アリ舍弟右大臣氏公ト相議シテ是ヲ

興立セラレ氏公右大臣ニテ當院ノ別當ヲ兼帶シテ稱橘氏長者是ヨリ當院ノ中中大納言以上ニ升進ノ人ヲ擇テ之ニ補セララル橘氏至末代衰タルユヘニ橘氏長者ノ号ハ攝家中ニ擇其器才宣言ヲ至是ヲ号是定 花山院御宇橘中納言澄清此院ノ領ヲ知ラルレドモ橘氏ノ長者ハ中関白道隆公為大納言蒙宣言其後此長者号九條殿ニ相傳リ橘氏後裔九條家附属ト云云
弘文院 在勸學院北 此所モ亦和氣氏ノ學問所也 是亦當院ノ別當アリ和氣清磨造之云
鴻臚館 在朱雀七條 此所ハ大内ノ御時異國ノ客

人使者等ヲ饗應セラル所也辨前卷

施藥院 拾芥注云唐橋南室町西云云此義不可也

同書圖六出九條坊門通下町西洞院東方也此義

可也弘法所作ノ種智院記ニ合セリ今尚其所小地

ヲ殘シテ号施藥院森其所稱荷神旅所ノ東一町ニ

小林アル是也 此所ハ大内裡ノ御時浴中洛外ノ諸

病者或ハ老衰テ無據輩孤獨等ヲ尋率テ令居此所

施撫育玉ヒシナリ延喜式卷四十二云凡京中路邊

病者孤子仰九箇條令其所見所遇隨便必令拾送

施藥院及東西悲田院云云悲田院 記前卷

興已上拾芥抄云大内裡御時浴中洛外ノ諸

羅城門 此門ハ大内裡ノ御時平安城南方惣郭ノ外

門ニテ直ニ内裡南方ノ正面也其街如記上朱雀通ニ

シテ南ハ至鳥羽也門前東西ノ街ハ九條通ニテ其條

北ノ畔ニ立タリ棟行東西ニテ上ニ在樓樓四方縁欄

干アリ此門ニ入テ至北其餘自一條一町上冷泉通

北畔ニ有門号朱雀門是則内裡惣郭ノ南面門也

羅城門ノ舊跡ハ今云ラ千本通九條辻也如今ハ鳥

羽大路於九條其餘東ニヨリタリ上古ハ不尔朱雀

通ニ貫ケリ今四塚ノ北九條辻ニ有橋渡東西此下

流ハ堀河ノ濁水ノ支流也是ハ爲耕作用水後世ニ

ナス所ナリ上古ハ從九條北從朱雀東鴨川ニ云テ

教ふるを考ふるよりいそのよしをいふ事なるを考ふる事なり
古今集 古を考ふる事なり

古今集 古を考ふる事なり

周防内侍家 冷泉通堀川北西角 住居

新古今集 周防内侍家を考ふる事なり

山家集 周防内侍家考ふる事なり

業平家 三條坊門南高倉西

風雅集 あつたのりより考ふる事なり

そとてしあぬ事考ふる事なり

無名抄 業平乃中宿の家考ふる事なり
定家卿家 二條北が京極西 此所ニ居住ノ故ニ称和歌家傳
徒然草ニ考ふる事なり

新後撰集 考ふる事なり

人ぬまゝくらしらるる切まごをまごをせりあべしとやうせむいさる
 畧記サレバ定家家隆トテ牛角ノ歌入ニシテ恰如車輪兩翼云云
 時雨亭 傳云此亭權中納言定家卿ノ所設ナリト舊跡所々ニ
 アリ西陣般舟院ノ地此所ナリト當院ノ門前南方ニ南北ニ
 通ツテ半町許ノ辻子アリ号定家辻子此所彼卿ノ第宅アリ
 ト云フ時雨亭荒廢ノ後今ノ般舟院ノ地ニ云歡喜寺アリ又
 同名ノ寺近隣ニアリ今尚存ス是ヲ号兩歡喜寺應仁ノ兵火ニ
 回祿ス應仁記云十本ニ兩歡喜寺此寺ニ定家葛ノ墓アリト云
 此墓今尚般舟院ノ内ニアリ般舟院始伏見ニアリ天正年中
 此地ニ移ル謠云定家卿式子内親王ヲ慕ヘルコト切ナリ卿ノ
 没後一念ノ妄執葛トナシテ塚ヲ絡フ故ニ号定家葛ト
 秋時雨亭彼卿ノ和歌ニ時雨知時ト云コトヲ讀ル
 偽リノナキ世ナリケリ神無月タカニコトヨリ時雨初ケシ
 又 時雨カト聞ケハ木ノ葉ノフルモノヲソレニモヌル我カ袂カナ

又一所 相國寺塔頭普光院ノ地其所ト 又一所 在豐樂其
 所釋迦堂ノ西一町許ニシテ至北又越西巷其地ニ有庵室号
 大厭離庵此所彼亭アリト所ト云有井云定家井庵東島ノ間ニ
 有塚爲家塚ト云 又一所 續盤山ノ東面松原村北一町餘
 田畔ニ空地アリ此所彼亭アリト土人誤テ時雨地ト云ナル後
 世此所ニ作堂安藥師佛ニヤ土人又云藥師堂
 原稻家北島亭 北島地名指南抄云北島通從一條北其間三
 町也云此條通東西云今塔壇ノ邊ナル歟 雅家系圖云權大納
 言通方卿男北島准后親房祖父也云
 大納言公綱卿亭 在北小路今出河西 實氏公 今世帝王編
 年紀云 龜山院 後嵯峨院第三皇子 建長元年巳酉五月二
 十七日誕生于外祖父前太政大臣實氏 今出河第云注北
 小路北今出河云
 中園殿 見室町通上立賣北 持明院東北躰見園太躰此所

洞院公實公第也。曆應上皇此所御幸事載園太曆
菊亭 在北小路河殿後今出愚昧記云永和四年大樹北小路亭

元院御所也。大樹申請造營之。前右大將公直菊亭同混領之。
云園太曆云。觀應元年十月十五日向右府第先參新院。

洞院芝第 洞院實深公宅也。康富記芝地名也。云今芝藥師町邊
次又寺內通西有芝。辻子可有後勘

式部大夫永範宅 一條北大官西出山槐記
日野資綱第 烏丸一條北方 親長記云日野一位資綱宿所。

一條烏丸北類云今尚一條通室町西号西日野殿町。
中納言能保第 一條室町出東鑑持明院通重朝臣男頼朝卿

妹号一係二位帝王編年記
大納言道綱家 在一條 出今昔物語

治部卿通俊宅 在一條
散木集 治部卿通俊乃一系の家之。水石安久と云ふるを

山川をいふのくまひささるて終ぬる乃路と云ふは 後醍醐に

一條西殿 在上御門西洞院 關白家實公第 出百練抄

一條東殿 在上御門室町西新町東 百練抄

伏見殿 在上御門 康富記云仙洞者上御門高倉南西角

前有府公光公亭也。自去嘉吉元年冬以伏見殿為皇居。仍以此
此亭為伏見殿御在所云云

源定通卿亭 在上御門万里小路 定親卿号久我源大納言

上御門院之外戚也 百練抄

邦綱卿亭 在上御門東洞院東 前大納言邦綱第先々時久

為皇居。治承四年三月四日今夜 新院遜位之後始有御幸

此亭云云 山槐記

井露寺親長亭 在正親町烏丸西 宣胤卿記

宣胤卿亭 在上御門西洞院 中御門宣胤卿 出同記

內大臣實量公亭 在上御門高倉西 實量公轉法輪三條 康富記

保元元年ヨリ以來天下ノ大小事ヲ心ノミニ行ナシタエタル跡
ヲツギ。スタレタル道ヲオコレ。延久ノ例ニ任セテ。大内ニ記録所ヲ
置理非ラ勘交ス。聖断私ナカリシカ。人ノ恨モ不貽云云

大臣頼忠公亭 在三條北西洞院東 拾芥圖 太政大臣頼忠公

出大鏡云。いぢらぐ。る小ぢら。乃。まゝ。其。れ。之。良。の。次。弟。なり。三條
よりい。心。西。洞院。よりい。志。よ。ら。ん。あ。ひ。く。を。こ。ま。ま。ぬ。と。そ。や。り。て

右大將實基卿宅 在三條西洞院 抄 於此所 四條院崩 後中
内大臣公教公亭 在三條高倉東 拾芥圖 右記

菅原在良卿宅 在三條壬生 出續古事談云。天祚じつ。は。ま。ひ
々。つ。ひ。を。り。ま。は。は。ん。と。し。ま。る。ま。ま。や。う。を。て。は。め。り。ま。か。つ。る
や。は。ま。ら。あ。ら。う。と。こ。ひ。絲。ハ。ほ。ろ。う。と。ど。と。ま。み。お。と。降。り。て。あ。つ。ま
て。は。い。家。焼。り。ま。ら。つ。げ。ひ。ま。く。く。と。あ。そ。ろ。う。と。ま。事。也

中納言雅頼卿宅 在三條猪隈東 山槐記
正三位家保宅 在三條東洞院 系圖傳 正二位顯季男 山槐記

又一所 三條京極 百練抄 同抄大治四年閏七月二十日。待賢
門院於家保朝臣。三條家誕第五。皇子。本。此。所。門。院。ノ。館。上。ス

大納言經信卿亭 在三條 叢木集
藤敦頼亭 在三條東洞院 歌人從五位下右馬助後出家。道
因法師是也 治部丞清孝男

藤長實卿宅 在三條烏丸 此所美福門院降誕地也。仁平元年
十一月二日八條殿炎上。新院御幸此亭。百練抄

權大納言兼實宅 四條坊門東洞院 山槐記
惟方宅 在四條高倉 兵範記云。久壽二年三月三日今夜

東宮行啓四條高倉惟方家 日來御于烏 五日今夕妹子内親
王 法皇御女美福 被入東宮女御御年十六歳

大納言隆季卿宅 在四條大宮西 山槐記
時賢卿宅 在綾小路壬生 出著聞集 後鳥羽院御宇蹴鞠名人

大納言泰通宅 在五條坊門高倉 著聞集

藤頭隆宅 在五條北高倉西 康和五年正月十六日丙申今夜

子刻女御有御產事 鳥羽院后於此所御產也 本朝世說

中宮大夫實長卿宅 在五條北東洞院東 山槐記

大江公資家 在五條 大江公資宅 在五條東洞院 袋神紙

左京大夫顯輔宅 在五條南西洞院東 舊記

法性寺攝政亭 在六條坊門鳥丸 著聞集

源朝雅館 在六角東洞院 源朝雅ハ帝都ノ守護也元久二

年七月下旬將軍實朝公北條時政ノ許ニ移住ノ時牧御方私ニ

時政ヲ勸テ實朝ヲ害シ其聲朝雅モ源氏ノ一族ナレ是ヲ取

立テ將軍トセント又政子此由ヲ聞テ實朝ヲ迎ヘテ義時ノ宅ニ

入シ在鎌倉ノ武士長谷義時ノ亭ヲ守護ス時政モ爲方ナク

大朝髮シ伊豆ノ北條工藤居セリ是ニ依テ在京ノ武士ニ命ジテ

武藏守源朝雅ヲ誅ス東鑑

伊賀判官光季宅 在高辻京極邊 承久年中京師ノ守護職也

承久記判官ノ宿所ハ高辻京極高辻ヨリハ北京極ヨリハ西京

極面ハ極門平門ニテ大門ナリ高辻面ハ土門ニテ小門也下略

此所 後鳥羽院ノ爲ニ亡滅セラル其來由ハ承久五年ノ夏

後鳥羽院北條義時ヲ亡シ至ハントノ御隱謀アリ先帝土ノ守

護ナルヲ以テ光季ヲ召トイヘドモ更ニ不領狀院參スルコト無シ

仍テ官軍ヲ以テ此所ヲ攻ラル光季防グニ無勢シテ父子并ニ

家士二十九人自害ス

兵部大輔大江公資宅 在五條東洞院 庭ニ櫻ノ大木アリ能因法

師公資ト號シ花ノ比毎歲攝州古曾部ヨリ來ル由能因ガ傳ニ書ス

源家堀河館 是則源爲義ヨリ賴朝ニ傳ル所ナリ其地今本國寺

本房ヨリ南ノ方也方丈ノ東北竹林ノ地古ノ馬場也ト云又說

此所ヨリ東堀川ヲ越テ今ニ夕醒井通六條坊門ノ南ニ至リテ

其方境ナリト坊門ノ南ノ町ヲ云泉水町人家ノ後ニ池跡存ス

是其境内ニアル所ナリト云判官殿池也愚案此義誤リニシテ此

所ハ後白河法皇ノ御所ノ地西ノ堀九段其故ハ今本國寺ニ所
 在源直義ノ下知本國寺方境四至狀曰六條法華堂屋敷南
 森裏田堀北五條今道堀東御所跡舊堀堀下略法華堂ハ云本
 國寺今道ハ松原通也舊堀ハ彼寺東ニ流ル堀河ノ條ヲ指也堀
 河ノ流古ハ今ノ門内ニ入テ南方今本願寺ノ堀ヨリ西ニ流レ
 南ニ下リシ也然即今本國寺東ノ堀ハ東方御所ノ要害ニ所設
 也如云古堀河ノ館東ニ且テ其所ナラシメ何ゾ其宅館ヲ御所
 ト云ハシヤ御所ノ号ハ攝家官女御門跡已上ノ殿舎ヲ云也
 六條ノ御所辨次下因曰親朝義經不和ノトキ義經堀河ノ宅ニ
 居セルヲ土佐房ニ命ジテ義經ヲ謀ントス昌俊此所工夜謀ニ入ル
 是ヲ世ニ堀河夜討ト稱ス其夜白拍子志津賀働ク由ヲ稱ス又
 義經平家ヲ亡シ大臣親子ヲ生捕上洛ノ時此亭ニ入ル由平
 家盛衰記ニ載タリ是皆東鑑ニ違ス其所六條室町亭也是即爲義
 經所也昌俊ガ寄來ルモ白晝ニテ志津賀ハアラザル也東鑑載

源爲義亭

在六條室町

東鑑云元曆二年四月二十六日

今日前内府已下生虜依召所入洛之間法皇爲御覽其

勢密々被立御車於六條坊城云申刻各入洛前内府平

大納言各駕八葉車上前右衛門督兼父車後各淨土肥二

即實平威體在車前伊勢三郎能盛肩白赤在同後其外勇

士相圍車又美濃前司以下同相具之信基時實等者依被

兼用開路云皆悉入延尉六條室町第云

同卷五云文治元年十月十七日土佐房昌俊先日依金關

東嚴命相具水尾谷十郎已下六十餘騎軍士襲伊豫大夫

判官義經六條室町亭于時豫州方壯士等道遙西川邊之

間所殘留之家人雖不幾相具佐藤四郎兵衛尉忠信等自

大開門戶出責戰行家傳聞此事昌俊後面來相共防戰仍小

時昌俊退散豫州家人等走散求之豫州則馳奔仙洞奏

山州名跡志卷十八

四十四

無為之由云云

行家源為義十男義經伯父本名義盛

大膳大夫成忠亭

在六條西洞院出平家物語卷八

七條坊門亭

出東鑑卷四元曆二年四月二十八日建禮

門院渡御于吉田邊律師實憲坊又若宮今上兄御坐船津

之間侍從信清令奉回奉迎之奉入七條坊門亭云云

御殿

在六條堀河

山槐記此所關白左大臣家實公家也

最初美福門院乳母伯耆局宅云云此所今本國寺方丈良坊

平兼盛宅

在六條高倉東曾記

修理大夫顯季卿宅

在六條南東洞院東著聞集

顯輔卿宅

在六條大官兵範記

北小路東洞院亭

東鑑卷五文治元年十月廿二日右馬頭能

家人等自京都馳參申云云去十六日前備前守行家追補祓候人

之家屋擲取下部等結向行家移住北小路東洞院御亭云云

藤信清公亭

在七條坊城山槐記東鑑同

系圖云信清正二世

內大臣修理大夫信隆男

東鑑云元曆二年四月二十八日上略

若官今上御兄

侍從信清奉迎之奉入七條坊門亭云云

顯長卿宅

八條堀河平治物語下云云一院仁和寺殿ヨリ出サセ

御座タレドモ

二條殿ハ去年燒ヌ御所ニ可成所モナケル八條

堀河ノ皇太后宮

大夫顯長卿ノ宿所ヲ御所ニナシテ入セ玉フ云云

小松殿

八條北堀河西此所小松内府重盛ノ館也小松名義

不考又平賴盛ヲモ号

小松殿也案ス至承元年中此亭アリ

法然上人遠流記

云承元元年三月十八日禪房ヲ出シ先ハ

條ノ小松殿持佛堂

工移奉云云

平清盛館

西八條亭是也境界東ハ限大官西限坊城東西

三町北限

八條坊門南限八條拾芥抄彼書圖云仁安元年西

加四町云云

疑クハ西一町ナク其故ハ至四町則朱雀通ノ西

至三町也

朱雀ハ大内裏南面ノ大路ニシテ開闢ヨリ不辨ノ街

持明院

上立實北新町通西

此所持明院祖中納言基家卿

息女

陳子皇北

依為

後高倉院正妃就彼所緣御寄宿于持

明院及多年

後堀河院脫履之後同以持明院被成仙居了。

其後為代々仙居者也

已上宣胤卿記取意

案 崇光院亦此所二

移王命

後伏見院於此所崩御了。續神皇正統記曰 崇光院

親應二年八月俄子内裏云河門有より持明院及より幸 持明院

同くは流すなり。已上善喜如院は同宮と也。新院は彦義門院

乃以新ふぞ西より云々〇紹運録云

後伏見院崩持明院 建武三年四月六日

後鳥羽院五辻殿

百練抄

元久元年八月八日

上皇新御所五辻殿

御移徙御幸也

云云

齋院五辻亭

百練抄

承元二年九月十八日五辻前齋院薨

御年六十四鳥羽院皇女

姬宮五辻亭

六條院

兵範記云 仁安三年正月十九日壬午

裏書云 姬宮御所一條北邊五辻可為

主上御本所由自院

有御沙汰被官券契被獻内了

二十八日辛卯今夕為御一

遵行幸五辻宮御所云

皇太后宮御所

在一條室町

東鑑云 承元四年三月去四日

坊門院御所

於一條室町故皇太后宮御所崩 卷十九十八丁

案皇太后宮

後白河院后二條院母公歿

坊門院

高倉院皇女母小督局

号坊門女院又号六角内親王講範子齋宮

持明院上皇御所

在正親町東洞院

園太曆云 曆應二年十一月二十日今夜

天皇自内裏

正親町東洞院行幸持明院

東洞院殿

在正親町東洞院

後土御門院母公准后御所 宣胤卿記

承明門院御所

在土御門

著聞集 百練抄 土御門万里小路西云云

後柏原院皇居

在土御門東洞院面

号東洞院殿東洞院東南角云云

康富記元伏見殿御所也 嘉吉二年已來為皇居云

室町院

在室町土御門

昭慶門院御所也 龜山院皇女母大納言雅平卿女

春日殿

在春日通万里小路

玄耀門院亭

帝王編年記云 正應

三年二月行幸此亭又永仁五年四月十八日行幸云門院後深草院
大炊御門殿 在大炊御門内里小路 大治五年記 上皇御在

京極殿 在京極大炊御門 建仁上皇御所也 百練抄
後堀河院御所 在大炊御門西洞院 同抄

後嵯峨院御所 在冷泉通富小路邊 始内大臣亭也 讓位ノ後
此所ニ住王リ 著聞集

小野皇后御所 在二條東洞院 十訓抄
二條院御所 在三條 平治物語上

高倉宮御所 在三條高倉 平家物語 三條北高倉通也 今曇華院
地是也 宮 後白河院皇子以仁王母從三位成子藤季成女

後白河院御所 在三條烏丸 崇徳院住王リ 保元物語
後深草院御所 在富小路二條 嘉元二年七月十六日於此所崩王云 增鏡

白河院御所 在三條室町 續世繼物語云 白河院かき 傳云

本院白河院御所 在三條室町 傳云
かき 傳云 待賢門院又女院の御所なり。本院の御所なり。傳云

後鳥羽院御所 在西洞院六角 出東鑑卷二十五
四條離宮 出元亨釋書其地又何ノ御所ナル未考云 保延四年

二月二十三日 四條離宮火云 卷二十六
皇嘉門院御所 在四條壬生 出明月記 皇嘉門院聖子法性寺

關白忠通公女也 母大納言宗通卿女 崇徳院后 大治五年
二月二十一日 立后云

上西門院御所 在揚梅通油小路 經傳記 鳥羽院皇女母待賢門院
後白河院御所 在六條 案此所六條面ニ在門由載東鑑傳云 今

下寺可延壽寺始此御所ノ傍ニアリト 其舊地油小路樋口 寺
通南ニテ号金佛町 本尊銅像ナル故ナリ 長構堂又同所ニアリト
然則此御所ノ方境油小路ノ西方北八樋口通南ハ六條ノ北方

西八堀河ノ東畔ヲ限ル然ル時ハ東西一町南北三町也如今ハ油
小路ト堀河ノ間ニ在醒井通後世ニ所開也油小路六條ノ北一
町ヲ号内堀町是古堀アル所醒井通六條坊門ノ南一町ヲ号蓮
池町是又御所ノ池アル所筑東鑑云文治四年四月二十日酉
刻親能飛脚自京都參者去十三日六條殿燒亡云云寶藏光
御倉雖遭災於長構堂災本尊取出之云云卷八 又曰文治四
年六月六條殿作事可抽營作功之由二品依令申給造營如
本長構堂可候也有御沙汰哉付御堂傍藝御所可有同卷
又曰文治四年七月十一日六條殿御作事二品御知行國役
者爲親能奉行以大工國時欲被造進遠江國所役事被下御
教書今日到來則被付被國司義定云云
六條殿 御作事之間六條面築垣一町門等可被造進者使
院御氣色執達如件

六月二十七日

權右中辨

遠江守殿

又曰去十月十八日六條殿上棟云云又卷十二曰建久三年
二月十三日寅刻 太上法皇於六條殿崩御同十五日奉葬
法住寺法華堂雖爲重日依遺令也如此諸事存日被定置云云
七條女院御所 在七條堀河西 女院 高倉院后 後高倉院
後鳥羽院母公謹殖子贈左大臣信隆女
美福門院御所 在八條鳥丸 此平治物語上
同御所 在白河 号押小路殿此地洛外白河而中京師押小
路也今案其地今聖護院村南邊乎 戴舊記 吉記云壽永三
年四月十六日甲戌今夜院押小路殿御移徙也本是
鳥羽院仙居高松院御傳領也次被奉建春門院法住寺殿之
外依無他御所今加修造令渡御也已上 案門院於此所薨
山槐記曰永曆元年十一月二十四日今夜美福門院御葬送
自押小路殿渡御東殿云云

後鳥羽院御所九條院 在九條秋不詳 東鑑云承久三年七月九日
今日踐祚也 先帝於高陽院皇居遷位密々行幸九條院 卷二十五
二十六丁

右 先帝 後鳥羽院 新帝 土御門院

宣秋門院御所 在九條百練抄 月輪殿女 後鳥羽院后

皇嘉門院御所 在九條百練抄 承安四年十二月造營云 境內
在佛殿号御堂 吉記云治承五年三月三日有火皇嘉門院

御所於御堂免餘燬云

後鳥羽院御所 在四辻 四辻不詳 東鑑卷二十五二十六丁

朱雀院 不詳 宇多院御所 寬平九年七月三日御子敦仁
十親王ニ御位ヲ讓ス此所ニ住マヘリ 上皇御年三十歲 又天慶九

四月十三日 朱雀院御弟成明親王ニ御位ヲ讓テ移住マヘリ

二〇足利家將軍館并舊臣第

尊氏公館 在近衛通東洞院 太平記云左兵衛督馳集タル兵共
ヲ召具シテ將軍ノ御所近衛東洞院ヲ御坐ケル 卷二十七

同館 在二條高倉 載太平記節度使下向所 卷二十七

直義公館 在二條坊門高倉 号三條殿 太平記卷二十

同退隱館 在錦小路堀河 太平記云去程ニ直義八世ノ交リテ
止る細川兵部大夫顯氏ノ錦小路堀川ノ宿所ニ被移テリ猶モ師

直師泰公角テ始終御憤リヲ被止ニシケレバ身ノタメアレカニトテ

偷ニ可奉大田内々議スト聞エケレバ其疑ヲ散ゼンタメニ世ニ無望御

身ヲ捨果ラレタル心中ヲ知セントニヤ貞和五年十二月八日御年四

十二歳ニシテ御髮ヲ落シ玉ヒケル

義滿公館 在室町今出河北 号花亭又号室町殿其構室町通

今出河ノ北ニ南面ニ摠門アリ今号摠門町凡南北三町東西一町

半鳥丸西方ヲ爲東面造營鑊金銀庭境集諸花今其所ヲ号築

山町在摠門町北四巡ニ有堀田載後太平記東面ニ在四足門

由應仁記ニ載タリ永和四年三月有移徙由載將軍家譜永德

元年二月 後圓融院行幸アリ 應永二年四月 後小松院

後小松院

幸アリ。同四年四月義滿公北山亭ヲ造テ移リ此所ヲ子息義持公ニ被讓。北山亭見前卷。義持公後舍弟義宣任征夷將軍改義教。此代永享二年十二月加造新亭同九年十月二十二日。後花園院行幸關白以下百官供奉二十六日還幸。同御宇嘉吉元年四月二十四日義教公爲赤松滿祐逆心弑セラル。滿祐首ヲ持テ播州ニ飯。領細川右京大夫持之。畠山左衛門督持國大内介持世等義教公ノ息義勝ヲ立テ爲主君。同年九月山名持豐同教清同教之滿祐ヲ攻ム。滿祐自害ス。嘉吉三年七月十一日義勝早世十歲義勝ノ弟義成ヲ爲主時八歲享德二年六月義成改義政治世十五年ノ後以家督弟義視ニ被讓。是則初淨土寺門主号義尋還俗セシム事。載應仁記。此時應仁亂出義政義視ト不和アリ文明元年正月義政ノ實子義尚五歲ニシテ勝元以下諸臣ノ礼ヲ受ラル。長享二年九月義尚改義熙。延徳元年三月十六日江州於陳中幸セリ二十五歲。於此義政義視ト

和睦シ其子以義材爲子被讓。其後政元伊豆ヨリ義通ヲ迎テ爲主君。後ニ改義高。義政ノ弟政知ノ子ナリ。政知在伊豆。伯父義政初養子ノ約諾アリト云フ。

○花御所 行幸記曰永享九年十月一日御路東洞院ノ南ニ行中御門ヲ西ニ行室町ヲ北ニ行武者小路ヲ東ニ行。今出河ヲ北ニ行北小路ヲ西ニ行室町服ノ四足ニイタル。○後愚昧記云永和四年三月十日大樹北小路亭元院御所也。而去年炎上之後依無御造作。大樹申請造營。

義政公亭 在北小路烏丸 康富記云文安六年三月十一日烏丸殿有移徙寢殿門等自花御所被引之。

義尚公亭 在油小路一條南 文明六年造之。親長記。此地元裏松政光卿宅地也。

義輝義昭公亭 在室町通勘解由小路南。今号武衛陣町。是則先代三職一家武衛家館アリ。今其以南ヲ号大門町。又其東

烏丸ヲ号堀内町其以南ヲ号櫻馬場町。西ハ新町。南ハ春日。北ハ至近衛通其封境也。時ハ永祿七年ノ冬ヨリ至八年造營セラル然同八年夏義輝公三好松永ガ揮逆威惡シテ誅討ノ密謀アリ彼輩聞之同年五月十九日三好日向守長祿同下野守政康岩成主稅助左通松永彈正久秀男久通等發向圍此亭義輝公自攻戰ヲル終盡勢放火シテ自害アリ三十於此足利系統滅ス。其後義昭公代永祿十一年九月依信長武功追討三好一黨公此時以本國寺為本陣同年十月任征夷將軍明年正月五日三好ガ殘黨又襲本國寺然モ不得利敗北ス。信長公從濃州上洛シテ以村井民部嶋田所之助為奉行室町亭ヲ東北エ一町宛倍増シテ為再興為義昭公亭以木下秀吉令守護然後天正元年七月義昭公信長公ト不快シテ去此亭宇治真木嵩ニ籠城セル。於此信長公走士卒

攻破彼城命佐久間信盛木下秀吉義昭公ヲ河州若江城ニ送ラシム。然以村井長門守為京師所司天正七年十一月信長公伴亭ヲ造營シテ為一宮誠仁親王館。尊氏公建武二年入洛ヨリ已來或ハ父子或ハ兄弟相續シテ任將軍十三代治世二百三十一年也。義輝公ノ嗣職義榮任將軍永祿十年二月也。雖然同年九月依腫物卒セリ同十二年義昭任將軍至此十五世ナリ天正十年六月二日信長公信忠公為明智逆心信忠卿ハ於此亭被薨就其火災此館ヲ燒失テ斷絶ス

義持公館 在三條坊門 家譜云應永十六年十月自北山亭移居三條坊門亭

室町殿室母公亭 在北小路室町西号北小路殿 長真宿祢記云文明八年十一月十四日辰刻主上從小河御所行幸北小路殿三條禪尼御所

山州名跡志卷十八

〇五十二

勝知院 在柳原室町 此所室町殿母公亭也後又普光院殿

北方母公住。○等持院記云勝知院殿從一位万山禪尼寛正

八年八月八日逝去云 長真記云文明七年八月八日勝知

院殿室町殿御母義 十二回忌也於勝知院有御作善云

義政公館 在北小路万里小路 家譜云寶徳元年三月移徙

北小路万里小路亭

同館 在烏丸今出河北 号烏丸殿此所義政公成長所莊觀

美麗ヲナス由載應仁記

同母公館 在高倉今出河北 号今出河御所 應仁記云軍勢ヲ

一條ヨリ上エアゲ立テ。身方ノ勢防グニ難協。城エ花ノ出入難

義ナルヘントテ。東ハ烏丸殿高倉ノ御所。西ハ伊勢因幡守ガ宿

所ヨリ三條殿エ持ツケ晝夜ヲ不分戰フト云。案スルニ此時ノ

内裏ハ土御門ノ内裡也。辨末 是故ニ高倉通東洞院洛北ニ貫

タリ應仁記云軍兵二三万人一條室町ヨリ東烏丸東洞院高倉

四五町カ間ヲ真平ニコソ切テ上リケレ云

義視公館 在今出河北室町西 号今出河殿 此所義視公舅堂

上三條亭也

○武臣之第

高師直第 在今出河 出太平記 文曰故兵部卿親王ノ御母堂

民部卿三位殿ノ住荒シ玉ヒシ。古御所ヲ點シテ。棟門唐門四方ニ

アゲ。鉤殿泉殿棟梁高フレテ造並ベテ。奇麗ノ壯觀ヲ逞セリ

細川勝元第 在室町北有東北矢倉差向上御壺社前由載應仁記

細川清元第 在室町柳原加世以辻子。此名所誤。石栖院是即滿

元法躰号也

同第 在北小路町 康富記 長真記 勝元政元居

古山滿藤宅 在柳原 明德記

細川澄元宅 在小河北

伊勢守貞宗宅 在五辻室町西 今尚有号伊勢守屋敷
赤松兵部宅 在北小路 長真記

細川治部少輔宅 在武者小路猪隈西方 康富記
三好義長第 在衣棚通頭木下町 永祿四年正月三好長慶

男筑前守義長上浴ス將軍義輝公ニ謁ニ新ニ第ヲ構エテ大樹ノ
渡御ヲ願フ義輝公許諾ヌ同年二月晦日將軍威儀ヲ繕ヒテ義

長ガ第ニ來臨ス種々饗應榘樂等アリ然後義長ノ器量アルヲ松
永彈正忌畏レテ私ニ毒ヲ進メテ弑ス長慶已ニ老タリ舍弟十河一

存カ子義繼ヲ養ヒ繼嗣トス
細川政元第 在新町通上清藏口南大心院町 傳云住昔細

川頼之已來嫡流ハ管領トシヨリテ在京シ代々此地ニ居住スト
永正四年六月細川政元ノ老臣香西又六隱謀ヲ企テ政元ノ

小臣戸倉ニ賂ラシメテ今日二十三日ノ夜政元愛宕精進ノ多
湯殿ニ入ケル所ヲ戸倉從入テ密ニ政元ヲ刺弑ス政元今年四十

二歳法名ヲ大心院宗貞ト号ス政元常ニ魔法ヲ行フト称ソ
齋ス依之子孫ナレ其一族讚岐守元勝男六郎澄元ヲ養家督トス

畠山氏第 在衣棚突抜五辻通南 今号畠山町 其并今尚存ス
一色左京大夫第 在鳥丸今出河北東方 此所西向室町殿花

亭東門由載應仁記
伊勢因幡守亭 在今出河北自室町西 載應仁記是義滿公近臣也

大館兵庫頭亭 在鷹司通鳥丸西 康富記云亭祿四年室町殿
姫君誕生御母儀大館兵庫頭姊故於此所誕生也

武衛義廉第 在勘解由小路 應仁記
一色詮範第 在中御門堀河 明德記

山名宗全第 在上立賣南堀河通西 号山名辻子
應仁元年五月山名持豊入道宗全其督細川勝元ト洛中ニシテ

相戰フ宗全ト勝元ハ牛角ノ敵ニテ互ニ勝負アリ自之天下大ニ
乱レテ一月安穩ナラス洛中洛外ノ神社佛閣此時過半灰塵ト

十九。世ニ云ク應仁ノ兵乱是也

斯波亭 在室町通下立賣南武衛士所 應仁記

畠山政長亭 在万里小路春日通 同記

畠山第 在春日通万里小路 康富記 記云亨德三年八月二十

九日畠山弥三郎今日移畠山德本屋形云云

細川晴元宅 在三條猪隈 室町殿記

細川兵部少輔勝久宅 在万里小路四條南東ノ方一町富小路

イタノ今富小路四條南德正寺ノ地ニシテ井水今尚アリ

康富記云寶徳二年七月十九日向細川兵部少輔屋形云云

夫故將軍家之殿館京師ニアル處尊氏公ヨリ秀吉公ニ至テ

數代及其列臣之第宅共ニ以テ何カ數十ノミナラン今所代

只高嶺ノ一塊ナリ然ルヲ今亦予ガ管見ニ堪ル

山州名跡志卷之十八終

